

図画工作科事例2 指導と評価の一体化を意識した「造形遊び」の実践事例

# 題材名 つなぐんぐん

第4学年 A表現(1)ア(2)ア, B鑑賞(1)ア, 共通事項(1)アイ

## 1 題材の目標

棒状にした新聞紙をどんどんつないで、つなぎ方や組み合わせ方を工夫して活動することができる。



## 2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の感覚や行為を通して、新聞紙の棒をつなげてつくった形の感じが分かっている。</li> <li>自分たちが丸めてつくった新聞紙の棒やテープやはさみなどの用具を適切に扱うとともに、これまでに扱った様々な紙やはさみやテープについての経験を生かし、組み合わせたり、切つないだりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞紙の棒をつなげてつくった形の感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的な活動を思い付くことや、新しい形やその組み合わせなどを思い付きながら、どのように活動するかについて考えている。</li> <li>新聞紙の棒をつなげてつくった形の感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちがつくったものなどを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>棒をつないで形をつくり出したり、つないでつくった形を鑑賞したりする活動に進んで取り組もうとしている。</li> </ul>



## 3 学習計画と授業改善のポイント

過程	主な学習活動	指導上の留意点	授業改善のポイント
事前	・様々な太さや長さの新聞紙の棒をつくる。	・教室に入れ物を用意しておき、自由につくって入れていくようにする。	
発想 ・ 構想 ・ 製作	1 新聞紙の棒をつないで、できる形を考える。 ・どんな形ができそうかアイデアを交流する。 2 周りの友達と協力しながら、棒を組み合わせで形をつくる。	・三角の形を意識してつくること、棒の両端は折ること、長さをそろえること、2～3本ままとめると丈夫になること、下を丈夫に上は軽めにする事 ・十分な時間を確保することで、子供たちが複雑な形に挑戦したり、他のグループとくっつけたりして活動が広がっていく。	丈夫につくるポイントを確認 試すことができる時間の確保や声かけ

発想 ・ 構想 ・ 製作	・棒の長さを変え、使い方を工夫し、どんどん作りかえる。 ・はさみ、セロテープとマスキングテープなどの用具を使い、つなぎ合わせる。	・土台の補強に使えるように、机や椅子を用意しておく。 ・子供たちの様子を撮影したり手伝ったりしながら、めあてに向かって活動している様子を見つけて伝えていく。 ・形が変わったり、おもしろい活動をしたりしている姿を適宜取り上げて全体に紹介する。 ・活動が停滞する様子が見られたら、選択肢を与えたり、鑑賞の時間を取ったりする。
鑑賞	3 つくったものについて紹介し合い、互いの面白さやよさを伝え合う。 4 振り返りカードを記入する。 5 片付けをする。 ・テープをはがしたりはさみで切ったりして新聞の棒をほどいていく。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           声かけ、写真、鑑賞、振り返りカードで評価         </div> ・それぞれのグループでつくったものについて、互いに工夫した点や気付いた点について、紹介する機会を設ける。 ・振り返りカードには、感想だけでなく、学んだことを書くよう説明する。 ・子供たちがどのようなことを考え、チャレンジして、折り合いをつけていったのかを見取るようにする。

#### 4 振り返りカードの記述（原文を掲載）

- ・くふうしたところは、上にあげてななめになったときに、ぼうをつなげておさえをつくったところと、マスキングテープとセロテープをつけ分けたところです。
- ・自分では見つけられないくふうも、メンバーのみんなで力を合わせてくふうするところがあって、よかった。
- ・立っているところはみんなが同じようになるように バッテンにしてが同じようにしました。
- ・どだいをつけて立てようとしたけどたおれてしまって、横にして友だちと合体して、つくえもつかってくつけました。

#### 5 まとめ

本題材では、新聞紙の棒をつなげてつくる活動の楽しさを十分に味わうことができるように、つくる上で必要なポイントを事前に確認しておいた。また、協力して取り組むことや、形が変化したら鑑賞して次のつなぎ方を考えていくことについても声掛けをした。つなぎ合わせる道具は、セロハンテープとマスキングテープを使ったが、きつく巻きたいときはセロハンテープ、くるくる巻いて手でちぎったりやり直したりするときはマスキングテープというように、活動に合わせて使い分ける姿が見られた。

活動中は、児童のつぶやきに耳を傾けるとともに、さらに活動が広がるような声掛けをして、児童が全体を使って学ぶことができるように意識をした。

